

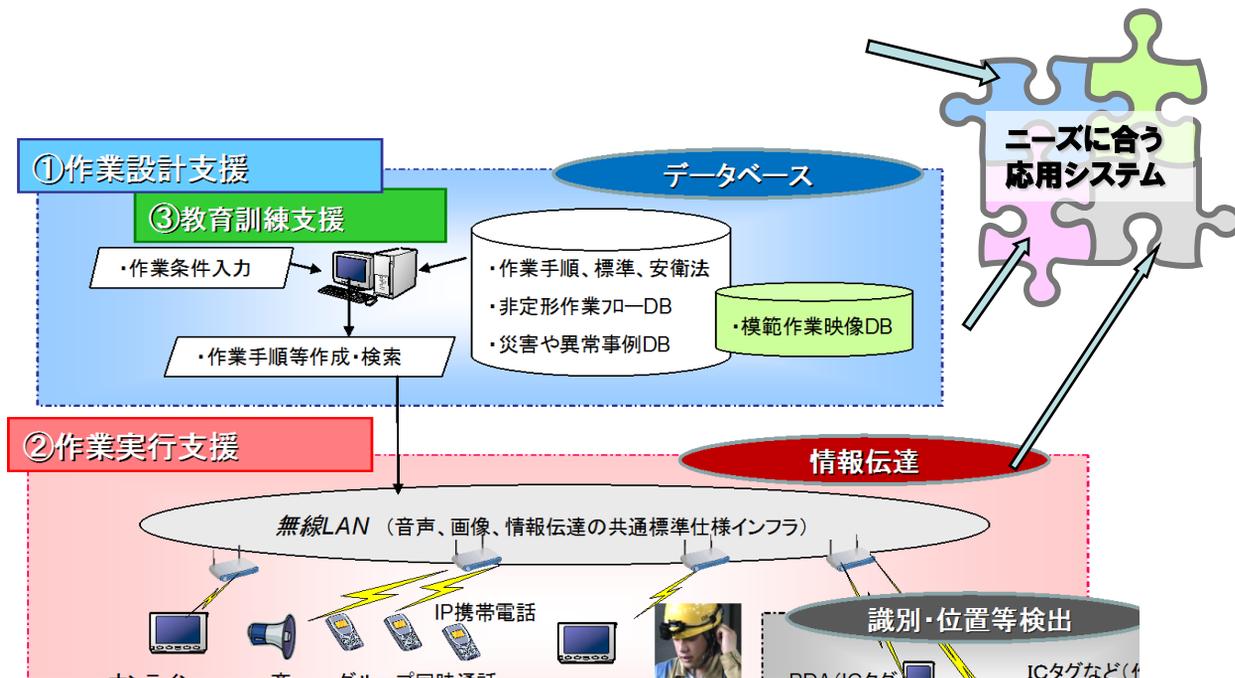
V. IT活用の新安全衛生管理手法の全体像

これまでに示した現場ニーズや、災害分析から見たIT活用の狙い目を整理すると、IT活用の全体像は『作業準備段階』の支援と『作業実行段階』における①作業設計、②教育訓練、③作業実行の各支援にまとめることができます。

リスク低減のKEY 支援段階	知識・ノウハウ面 (ノウハウ蓄積活用面)	職場風土・姿勢面 (感性、コミュニケーション面)
作業準備段階 危険に近づかない条件整備	① 作業設計支援 (定常、非定常)	③ 教育訓練支援 (知識教育、疑似体験)
作業実行段階 リアルタイムに災害を避ける	(作業手順、マニュアルの都度の確認実行支援) (作業状況の都度の相互連絡確認支援) ② 作業実行支援 (作業支援・作業(位置、状態)監視・災害危険源の都度の警告)	

上図の機能を実現する手段としてITを考えると、上図の①③の核となるITは「データベース」の蓄積検索であると言えます。また上図の②は「情報伝達」「識別・位置等検出」面でのIT活用であると言えます。

この見方でITシステム全体を構築すれば下図のような構成例になります。ニーズに応じ部分的に逐次構築すればいいのですが、全体像(グランドデザイン)をはじめに描いておくと手戻りもなく適用拡大できることになります。



以下、各IT要素である「データベース」「情報伝達」「識別・位置等検出」別にITの内容、さらにその組み合わせの応用システムの機能内容を示しながらIT活用によるリスク対応の様子を見てみましょう。